

平成二十八年入学試験問題（前期日程）

小 論 文

法文学部 国際言語文化学科 ヨーロッパ文化専攻

注意事項

- 一、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、解答は、必ず解答用紙に記入すること。
- 三、解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
- 四、解答時間は、一五〇分である。
- 五、縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

問 題

以下の文章は、『話し言葉の技術』（金田一春彦）からの抜粋です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

非公開

非公開

非公開

(金田一春彦、『話し言葉の技術』、講談社学術文庫、一九七七年、七五〜八〇ページ、抜粋)

問 筆者の考えについて、あなたはどのように思いますか。あなたの見解を、「言語生活」、「言語技術」、「思考の合理化」というキーワードを必ず用いて、また具体例を挙げて論を補強しながら、一〇〇〇字以上、一二〇〇字以内でまとめなさい。

平成二八年度入学試験問題（前期日程）

小 論 文

法文学部 国際言語文化学科 ヨーロッパ文化専攻

出題の意図

この小論文の出題意図は、社会生活における言語の役割に関する文章を読ませ、筆者の意見を踏まえたうえで、いかに自身の見解を發展させ、説得力ある論を展開できるかをみることである。本専攻はそのアドミッション・ポリシーに「情報を整理・分析し、独自の論を展開する」能力という一項を挙げており、本課題はまさしくその問題と関連するものである。問いの中で、特に具体例をあげて論を補強するよう注意を促したのは、より説得力ある論を展開してもらうためである。